

授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態
精神看護学実習Ⅳ(間接ケア実習)	2	後期	2	実習 90時間
担当教員	田中美恵子、畠山卓也			
授業概要	基盤分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、施設内において相談・調整・倫理調整などの間接ケアを実際に体験し、専門看護師としての間接ケア能力を養う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療施設において、CNSの実施している相談・調整・倫理調整などの場面に同行し、その実際について学習する。</li> <li>2. 医療施設において、患者1名程度を受け持ち、病棟内力動を査定するとともに、相談・調整・倫理調整などをCNSの指導を受けながら実施する。</li> </ol>			
履修条件	精神看護学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、実習Ⅰ、Ⅱを履修済みのこと			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受け持ち患者を1名程度持ち、病棟内力動を査定しながら、その患者を通して、CNSの指導を受けながら、相談・調整・倫理調整を実際に実施する。その際、教員および臨床指導者(CNS)よりスーパービジョンを受ける。相談(コンサルテーション)については、2例程度を目標とする。</li> <li>2. 学内カンファレンスにおいて、自分が行った間接ケアについて発表し、教員および他の学生とのディスカッションを通して、評価を行う。</li> </ol> <p>*詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。</p>			
教科書	特に指定せず。			
参考書	宇佐美しおり、野末聖香編：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会、2009.			
評価方法・基準	実習・カンファレンスへの参加度30%、レポート70%によって、総合的に評価する。			
事前・事後学習	これまでの学修を再度確認して深めておくこと。自己の課題について明確にしておくこと。事後は実習の振り返りを行い、今後の実践に向けて自己の課題を明らかにすること。			
備考	授業場所：井之頭病院 実習場所：財団法人井之頭病院 実習期間：原則として、10月～12月の間の2週間(3日/週、学内1日×2週間)			